

(1) 有形文化財（建造物） 1件

① 梅宮大社 9棟

梅宮大社は松尾橋上流の桂川東岸に所在する式内社である。橘氏の氏神と伝わり、相殿に橘清友・橘嘉智子（檀林皇后）・嵯峨天皇・仁明天皇、摂社若宮社本殿に橘諸兄を祀る。安産の守護神としても知られる。

中世に火災で焼失し、慶長9年（1604）に再造営されるも、元禄13年（1700）に火災に遭い修復・再建された。同年建立の規模の大きい三間社流造の本殿を中心に、前方に幣殿・東西回廊を置いて神域を区画し、舞殿形式の妻入拝殿、楼門などを配置する。このような配置は、京都市内でも一部の神社にのみ見られる構成で、元禄期の絵図に描かれる社殿配置と形式を踏襲している。近世の社殿建築配置を今日まで保つ歴史的価値のある建物群である。



① 梅宮大社 本殿
(京都市右京区 梅宮大社)

(2) 有形文化財（美術工芸品） 4件

(絵画)

② 紙本著色小出吉政及夫人像 2幅 園部藩小出氏歴代藩主及夫人像 15幅

近年まで園部藩小出家の菩提寺である徳雲寺（南丹市）に伝来した肖像画群である。初代藩主・小出吉親の父母にあたる吉政とその夫人の肖像画から第7代藩主・英筠と同夫人までの各藩主と夫人の肖像画、第9代藩主・英教の肖像画が伝わる。

吉政及び夫人像は画面上部に大徳寺第153世を務めた沢庵宗彭の賛を有す。続く初代・吉親像及び夫人像は江戸初期の狩野派を牽引した狩野探幽の落款を有し、上部には大徳寺第196世を務めた伝外宗左の賛を有す。以下の肖像画群も、これを先例として、そのほとんどが狩野派有力絵師の絵に江戸における小出氏の菩提寺である臨済宗大徳寺派・広徳寺の住職の着賛を伴う形で制作される。

園部藩の歴史を示す史料価値としてだけでなく、各時代の狩野派の肖像画を示す美術史的側面や江戸時代の藩主像制作という文化事象を考える上でも貴重である。



② 絹本著色小出吉親像 狩野探幽筆
園部藩小出氏歴代藩主及夫人像の内
(南丹市)

(彫刻)

③水晶宝龕入木造阿弥陀如来立像 1 軀

附 箱 1 合

蓮華座から立ち上がった蓮茎の上に、水晶で蓮のつぼみをかたどった宝龕を乗せ、内部にわずか 5.5 cm の阿弥陀如来立像を入れた珍しい作品である。蓮茎は 5 本の木軸の外に銅筒を嵌める構造で、木軸の上端が水晶底面の開口部の縁にくいこむことで、容易には解体できない非常に巧みな仕組みである。近年までほとんど解体されたことがなかったようで、保存状態は極めて良好である。

箱に記された墨書から、大永 8 年（1528）まで上醍醐清瀧宮の御正体と同じ箱に入れられていたことが知られる。着衣形式の特徴などから、快慶周辺の初期慶派仏師によって制作された可能性がある。鎌倉時代初期に遡る類例のない仏教工芸品として貴重なものである。



③水晶宝龕入木造阿弥陀如来立像
（京都市伏見区 醍醐寺）

(書跡・典籍)

④全蔵漸請千字文朱点 23 冊

附 開山和尚 楞嚴講談一件書 1 冊

く る しましなののかみちきよしよじょう
久留島信濃守通清書状 1 通

ばいようどうかんけいしりょう
貝葉堂関係資料 70 点

黄檗宗の僧鉄眼が刊行した『鉄眼版一切経』は、日本ではじめて広く流布した版本の一切経であるが、『全蔵漸請千字文朱点』23 冊は、その一切経の納入記録である。天和 4 年（1684）から昭和 15 年（1940）までの納入が記録され、納入先も全国各地に及んでいる。

『貝葉堂関係資料』は、一切経の装丁を担った貝葉堂（現貝葉書院）に伝来した 70 点から成る資料群で、貝葉堂の運営や版木のメンテナンスに関する文書等が含まれる。両資料群から、日本の仏教に大きな影響を与えた『鉄眼版一切経』の出版について詳細に知ることができ、大変貴重である。



④全蔵漸請千字文朱点：上
貝葉堂関係資料：下
（宇治市 宝蔵院）

(考古資料)

⑤ 鳥居前古墳出土品

国史跡乙訓古墳群を構成する鳥居前古墳の出土品である。巴形銅器をはじめとして、銅鏡、玉類、武器類、刀剣類、鏃類、農工具類などの出土品は、古墳時代前期末に位置づけられる。武器・武器類が多く、装身具が比較的少ない点が特徴的で、司祭者から武人へ被葬者像が変化する過渡的な様相として評価できる。特に巴形銅器は、被葬者が朝鮮半島との通交に関わる性格を備えていたことを示す。

淀川流域における古墳時代の有力者の性格の変化や、外交への関与のあり方を考える上で重要な資料といえ、古墳時代の地域社会や政治史を考える上で高い学術的価値を有している。



⑤ 鳥居前古墳出土品（大山崎町）

(3) 名勝 1件

⑥ 妙喜庵庭園

妙喜庵は、大山崎町小字竜光に位置する臨済宗東福寺派の禅刹で、明応年間（1492-1501）春嶽士芳による創建と伝わる。天正期に庵主であった功叔は、津田宗及を妙喜庵に招いている。

現在の妙喜庵庭園を構成する建造物には、室町末期頃の書院（重要文化財）、千利休の遺作と伝わる茶室・待庵（国宝）、明月堂、山門がある。庭園は、大別すると書院の西から南にかけての区域、書院・明月堂から待庵へ向かう露地の区域、明月堂の東庭の区域により構成されている。しかし各空間に明確な区分はなく、敷地全体に巡らされた園路や植栽・石造物などによって巧みにつながり、各区域の特徴を活かしつつ、調和のとれた庭園となっている。

こうした作庭の特徴は、細やかな改変が加えられつつも、少なくとも待庵建築以後受け継がれてきたものと見られ、名勝として貴重な価値を有している。



⑥ 妙喜庵庭園（乙訓郡大山崎町 妙喜庵）